

# 装置単体で圧力検知

## 日本オートマチックマシンの高精度サーボプレス

日本オートマチックマシン（東京都大田区、水野雅文社長、03・3756・1431）は、装置単体で圧力を検知し高精度なプレス加工を行う「SB P1000AEサーボプレス フルクローズド圧力制御仕様」を「真」を31日に発売する。



作業の開始から終了まで安定した圧力で加工が可能となり、金属だけでなくウレタン加工などにも性能を発揮する。価格は64.8万円（消費税込み）。初年度100台の販売を目標とする。

従来機もシーケンサー制御を採用しているが、繊細な製品に対し、衝撃による影響が発生することがあった。新型機はロードセル（荷重計）が実圧を検知し、装置にフィードバックすることで実圧を一定に維持して加工する。加工のバラつきが少なくなるほか、2段階の圧力制御など高精度な加工も可能となる。

本体寸法は幅588mm×奥行1073mm×高さ1455mm。最大加圧能力は98kgf。ストロークは最長200mm。加圧能力が49kgf、29・4kgfのモデルも投入を計画している。

31日に東京・有明の東京ビッグサイトで開幕する国際鍛圧機械見本市「MF-TOKYO 2019 第6回プレス・板金・フォーミング展」に同機を出展する。